純情産地発
クラーラ
KLARA
vol.817
2017.8

タイトルのKlara（クラーラ）は、宮沢賢治の手帳にしるされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。
全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

みんなの**カ**で!
がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

季節のエッセー いわての野草 …… 02
特集
「農家組合員の所得増大」に向けた
「純情産地確立『栄』プラン」の実践 …… 03
消費地だより …… 06
みのるinfo …… 06
みんなの分教場 …… 07
報告！出向く活動班 …… 08
純情むすめ活動記 …… 09
純情人 …… 09
ニュースワイドアングル …… 10

季節のエッセー

いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「ツユクサ」

（ツユクサ科）

子どもたちは、この花をトンボの口にあてがい、そのためだろうか、方言ではトンボを「アゲムシャムシャと食べさせて遊んだ。ズ」、ツユクサを「アゲズバナ」と呼んでいる。見ようによっては二枚の花びらが、トンボの目玉にも似ている。

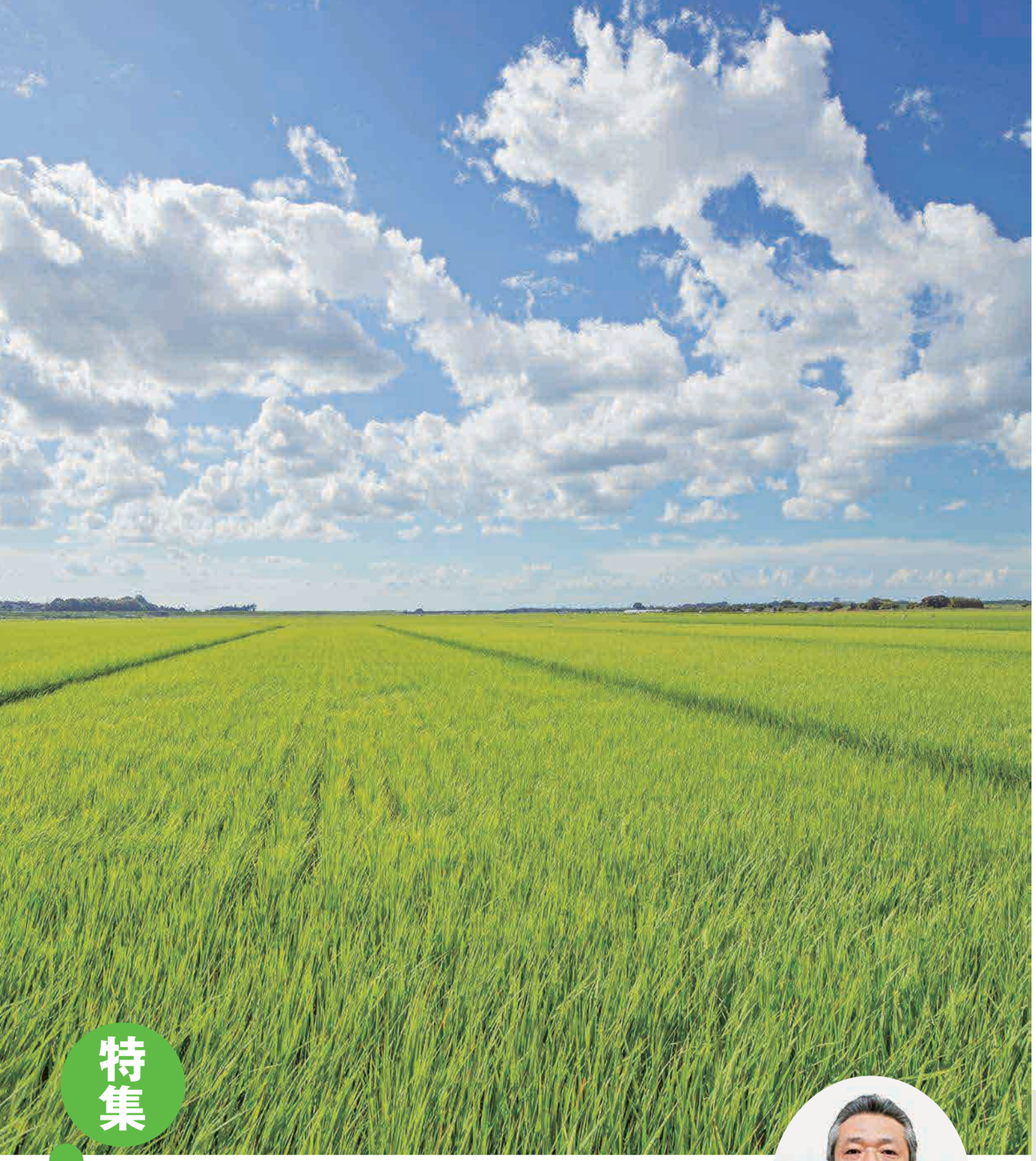
この花のしぼり汁は、布についても洗うときれいに落ちるので、古くから友禅染めの下絵を描くのに使われた。

滋賀県の草津では、今でもツユクサの仲間が栽培されており、その取り入れ作業が真夏の炎天下に続けられることから、「地獄花」とも呼ばれている。

二つ折りになった緑色の部分（苞）には、つぼみがいくつも隠れていて、そこから顔をのぞかせるようにして、次々と花が咲く。

そのため、ずいぶん花期が長いように感じられるが、一つ一つの花は、朝開くと半日でしぼんでしまう短命なもの。

参考資料:澤口たまみ著『岩手の野草百科』（岩手日報社発行）より



特集

「農家組合員の所得増大」に向けた「純情産地確立『栄』プラン」の実践

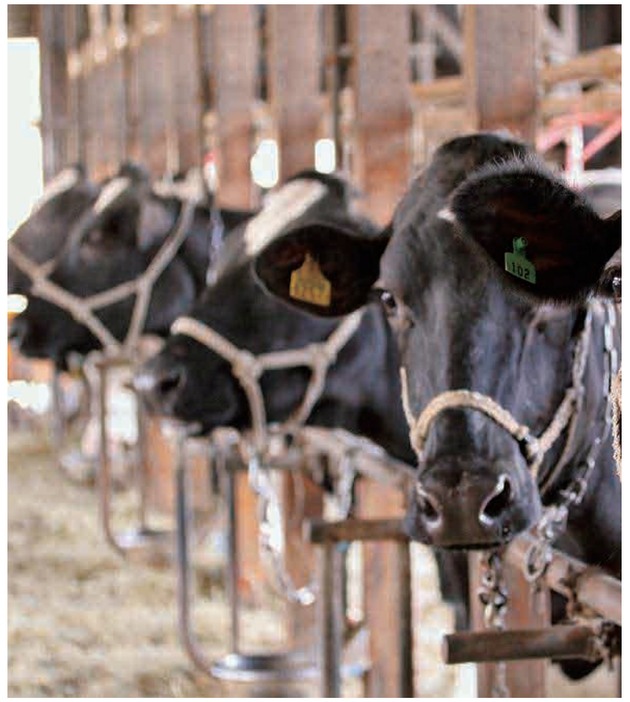
副本部長
小原 俊英

はじめに

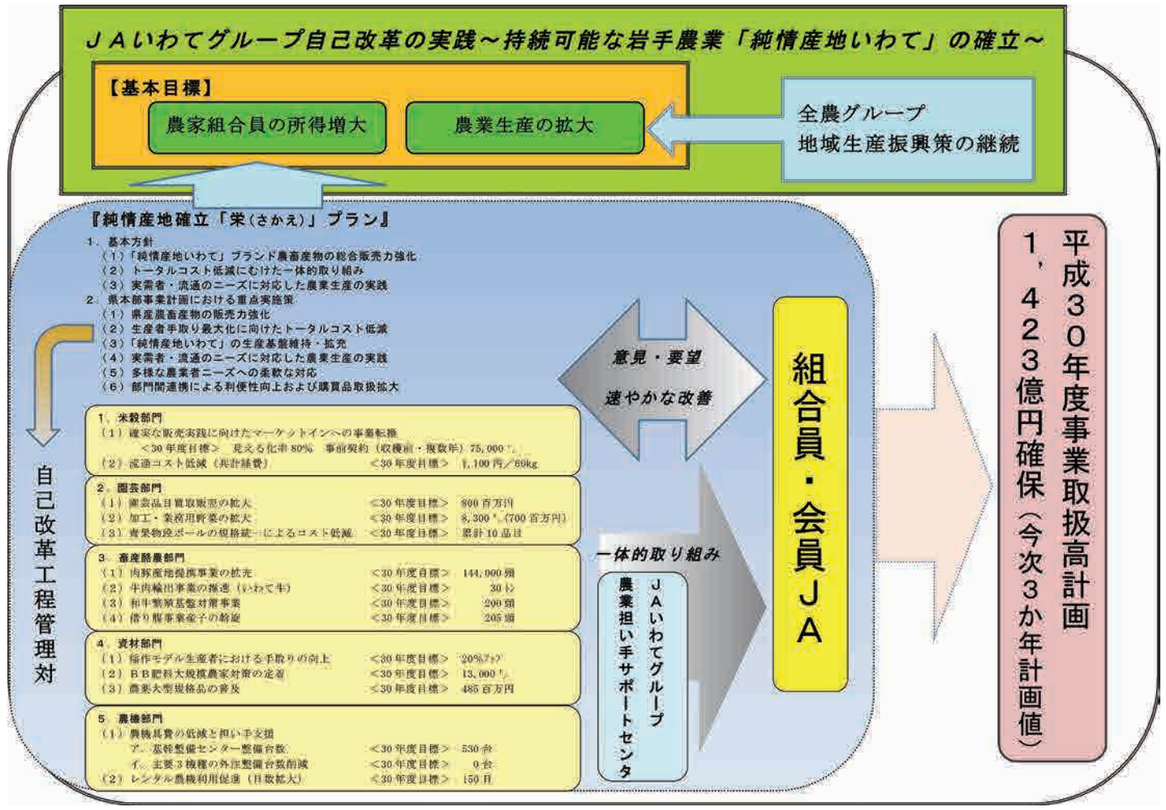
全農では、今次3か年計画で定めた基本フレームに、「魅力増す農業・農村の実現に向けたJAグループの取組みと提案」で示した具体策を加え深化・拡充するとともに、自民党が示した「農業競争力強化プログラム」と政府が示した「農林水産業・地域の活力創造プラン」で本会に求められている取組みの具体化を図り、スピードを上げて実践することとしています。

こうした状況を受けて、岩手県本部では、「農家組合員の所得増大」と「農業生産の拡大」に向けた「純情産地確立『栄』プラン」の実践を、岩手独自の取組みとして位置づけ、販売・購買事業それぞれ各部門で具体的数値目標とこれに伴う組合員メリットを明示し、達成に向けた進捗管理をしていくこととしています。

今回は、その「純情産地確立『栄』プラン」の内容についてご紹介させていただきます。



1.「純情産地確立『栄』プラン」基本スキーム



2.平成29年度 純情産地いわて「栄」プラン 実施一覧

実施部門	課名	行動計画	組合員メリット	数値目標	28年度実績
米穀部	米穀販売課	確実な販売実践に向けたマーケットイン	実需者との事前契約数量の拡大により安定生産・販売を実現し、組合員の安定収益確保	事前契約92,000ﾄﾝ	90,000ﾄﾝ
				買取数量10,000ﾄﾝ	1,200ﾄﾝ
				契約栽培30,000ﾄﾝ	14,000ﾄﾝ
		流通コスト低減	共同計算販売等の費用圧縮による生産者手取りの最大化	流通コスト1,150円/60kg(30円/60kgの削減目標)	27年産：1,200円/60kg 28年産：1,180円/60ｋｇ
園芸部	生産販売課	園芸品目買取販売の拡大（野菜・果実）	シーズン価格や下限価格設定での買取による生産者所得の安定 新規園芸品目栽培者の栽培開始にかかるハードルの低減	野菜　470百万円 果実　230百万円	野菜　233百万円 果実　207百万円
	花き資材課	園芸品目買取販売の拡大（花・乾椎茸）	花　き　不需要期の安定収益確保 乾椎茸　買取による生産者所得の向上	販売金額：花き　30百万円 乾椎茸　40百万円	花き　19百万円 乾椎茸39百万円
	生産販売課	加工・業務用野菜の拡大	稲作等にかわる水田転換品目の導入による収益拡大 機械化体系による省力化 加工業務向け栽培体系による面積拡大での収益確保	7,200トン 660百万円	611百万円
	花き資材課	青果物段ボールの規格統一によるコスト低減	段ボール規格統一による資材コスト低減	規格統一７品目（県域の規格統一取り組み完了）	5品目
畜産酪農部	畜産統括課	肉豚産地提携事業の拡充・農家手取りの向上	肉豚産地提携事業に係る県内外向け分荷頭数を、約2,000頭増の142,000頭確保することにより、販売プレミア59,640千円を生産者へ還元する。	１４２,０００頭（販売プレミア59,640千円）	140,632頭
	畜産販売課	牛肉輸出事業の推進（いわて牛）	輸出事業を通じて牛枝肉の有利販売につなげることにより所得向上に寄与する。	30ﾄﾝ	24.4ﾄﾝ
	家畜市場課	和牛繁殖基盤の維持・拡大	規模拡大希望農家への増頭支援と、巡回による管理指導。	緊急増頭対策事業：150頭 生産性向上による増頭（分娩間隔410日）：50頭 合計　200頭	153頭
	畜産統括課	借り腹事業産子の斡旋	酪農家へのメリット①約260,000円/頭の副収入②分娩による、乳量確保。 和牛肥育農家へのメリット・200,000円/頭の素畜費の圧縮。	195頭	6頭
資材部	営農技術課	稲作モデル生産者における手取りの向上	持続可能な農業生産および安定した農業経営づくり （生産者の所得増大）	モデル生産者の手取り１０％UP	いわて中央23.5%UP (実証結果推測値)
	肥料資材課	ＢＢ肥料大規模農家対策の拡大による生産者へのメリット還元 （対象数量目標8,000トン・92百万円の農家対策）	ＢＢ肥料４トン以上の予約受注で11,500円／ﾄﾝ以上の対策 加えて、大型車による10ﾄﾝ以上の直送で1,000円／ﾄﾝの対策加算	農家対策 8,000トン×対策@11,500円＝92百万円	55百万円
		農薬大型規格の普及拡大 （取扱金額520百万円・コスト削減予定額106百万円）	大型規格品目：最大で17%程度の価格折込 担い手直送規格：約20%から30%の価格折込	対象薬剤コスト削減予定額106百万円	98百万円
農機事業部	農業機械課	農業機械維持費の低減による担い手支援	農機の修理・整備機１台につき４万円の経費削減 （系統レバレート：5,000円、商系レバレート：7,000円 修理機単価100,000円で試算） ※レバレート：１時間当たりの修理単価	修理整備費2,000万円削減 （基幹整備センター整備目標：500台） ※一体運営：467台 卸JA：33台	1,800万円 450台
		レンタル農機利用促進による担い手支援	６条田植機　3ha　年間2日使用の場合：年間約313,600円お得 ６条直播機（鉄コーティング）4ha年間2日使用の場合：年間約208,000円お得 じゃがいもハーベスタ　1ha　年間10日使用の場合：年間約430,000円お得 ※主要３機種の１台平均で１日あたり、約100,000円お得	レンタル日数：140日 ［１日10万円×140日＝年間：1,400万円削減］	120日
北東北石油事業所	岩手推進課	農業用軽トラックのスタッドレス安価販売	営農用軽トラック用スタッドレスの安価販売により、農家の手取りを増やす取り組みに貢献する	目標：6,210本 通常価格より2割以上のコスト低減 低減金額1,553台×3，250円＝5,047,250円	6,210本

おわりに

「純情産地確立『栄』プラン」は、全農岩手県本部のすべての職員が一体となり、具体的な数値目標を着実に実践していくことにより、自己改革を前進させ、結果として「農家組合員の所得増大」と「農業生産の拡大」に資することを目指しています。

今後益々厳しい生産環境が想定されますが、全農岩手県本部は、どんな時でも農家組合員の皆様方の負託に応えつづける組織として精進して参る所存でありますので、引き続き本会事業に対し特段のご理解ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

純情ブランド消費地の「今」をリポートします。

消費地販売部発 消費地だより

消費地販売課
玉山 暢悦

岩手県知事とJAいわてグループとの「いわて純情野菜トップセールス」の開催

達増知事と久保会長によるセリ台前あいさつ

鮮やかに彩られた「いわて純情野菜」

試食会によるPR

7月14日(金)東京・大田市場内にて、岩手県知事とJAいわてグループとの「いわて純情野菜トップセールス」が盛大に開催されました。東京青果㈱のマンモスセリ台および特設会場前挨拶では、岩手県・達増知事をはじめ、JA岩手県五連・久保会長、JA組合長(県内7JA)、大型野菜経営者協議会・中島・遠藤・小野寺副会長、JA全農いわて・畠山県本部長ほか、文字通り県内のトップが参加し「いわて純情野菜」のPRがおこなわれました。

展示コーナーではキャベツ・レタス・ほうれん草やきゅうり・トマト・ミニトマト・ピーマン・なす・菌床しいたけなど各JAを代表する幅広い品目が展示されました。

また、試食会ではきゅうり・ミニトマト・キャベツ・レタスなど400食を提供しました。お客様の反応も非常に好評で「いわて純情野菜」の新鮮さ、美味しさをPRすることが出来ました。「いわて純情むすめ」・「じゅんき君」・「いわて純農Boy」も登場し、場内の注目を集めました。

連日トップセールスが行われている大田市場ですが、県知事の参加は貴重な機会のため、多数のお客様に参加していただき、本県への期待度が伺えたトップセールスとなりました。

これからが「いわて純情野菜」の出番となります。生産者の皆様におかれましては、暑い日が続いておりますので、体調管理に十分注意いただきながら、野菜の生産、出荷をお願いいたします。

みのるinfo

みのるダイニング
MINORU DINING

「純米めん」3種(純米冷めん、純米ひっつみ、純米じゃじゃめん)
各1箱4食入り **1,080円**(税込)

純情産地いわての店「みのるダイニング」の人気メニュー「お米麺の冷麺サラダ」に使用している株式会社兼平製麺所の「純米めん」3種(純米冷めん、純米ひっつみ、純米じゃじゃめん)が、店頭で購入可能になりました。盛岡産の「ひとめぼれ」から作られた、つるつる食感は暑い夏にぴったり。色とりどりな外箱も魅力的な一品です。1箱4食入、各1080円(税込)。お土産やご自宅用にどうぞ。

※なお、包装等のご対応はしておりませんので、ご了承ください。

また、7月24日から、当店看板メニュー「いわて純純ハンバーグ」の仲間たちが新登場。暑い夏にさっぱりと味わえる「おろしハンバーグ」や、濃厚な葛巻産チーズを使用した「チーズハンバーグ」は、大人から子供まで楽しめます。他にも、菜彩鶏を使用した「親子丼」や三陸産サーモンを使用した「マリネ丼」など多数ご用意しておりますので、皆様のご来店をお待ちしております。

みんなの分教場

園芸部　生産販売課
技術主管
佐々木　仁

摘蕾(てきらい)の実施で「ラ・フランス」の大玉生産を

1.はじめに

西洋なしの代表的品種ラ・フランス(図1)は、その上品な食味から高級果物として広く流通しています。しかし、栽培面では品種の特性として小玉になりやすく、大玉果との価格差がきわめて大きいことから、現地では大玉比率の向上が課題となっています。

図1 ラ・フランス果実

2.摘蕾を主とした着果管理

生産現場では授粉不良や生理落果による結実量の不足を心配するあまり、摘蕾はほとんど実施されていません。しかし、実際には摘蕾とその後の着果管理を徹底して行うことにより、着果不足を生じることもなく安定して大玉生産を実現している生産者もおり、摘蕾の有効性が確認されています。

3.摘蕾

摘蕾を行うことで開花時期が揃い、果実の細胞数が増加することから、大玉生産や品質向上の効果が期待できます。しかし、摘蕾を効率よく実施できる期間は短いため、そのタイミングを見極めなければなりません。具体的には、作業効率が高い時期は花芽の鱗包から蕾が伸びだした直後から開花までであり(図2)、遅れるほど摘み取るのが難しくなります。

図2 摘蕾適期の状態(上)と摘蕾後(下)

摘蕾の実施により果実肥大が促進されるとともに、その後の摘果作業が大幅に軽減されます。

4.予備摘果(荒摘果)

予備摘果は、落花後2週間くらいでがく立を確認したら開始し(図3)、1果叢に1~2果残します。その際、残す果実は果梗が太くて長く、肥大が良い3~4番果(図4)とすることで、大玉で品質の良い果実が生産されます。

5.仕上げ摘果

仕上げ摘果は、生理落果が終了する満開5週間後までに終えるようにします(図5)。これが遅れると、その後スタートする花芽分化に影響を及ぼし、来年の花芽不足や質の低下に結びつく可能性があります。

また、最終的な着果量は、果実の大きさが280g以上の大玉を目指すためには、1果当たりの葉数が60枚以上となるよう調整します。

なお、ラ・フランスは単為結果性があるため、副梢等に生じる遅れ花(図6)の多くが結実します。小果で商品性の無い果実ですので、すみやかに摘果してください。

図3 予備摘果の適期(上)と摘果後(下)

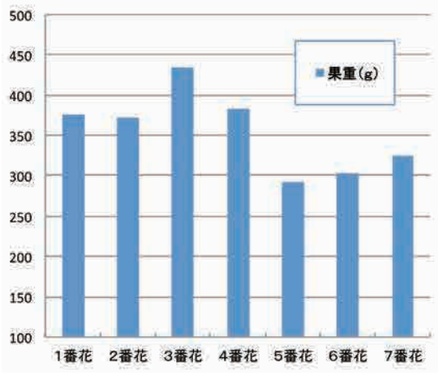


図4 ラ・フランスの花序と果実肥大(山形園試 1991)

図5 仕上げ適期の果実(左)と無摘果の果実(右)の肥大差

図6 花蕾の副梢に咲いた遅れ花

報告！

出向く活動班

今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
菊池　規

「JAおおふなとの担い手支援活動について

「ひころいちファーム」代表の村上一憲氏（左）と菊池幸見アナウンサー（右）の米粉シリアル試作の様子

今回は、JAおおふなとの担い手支援活動についてご紹介させて頂きます。

専任TACの配置

今年度、担い手農家とのつながりを強化するため、営農経済部営農企画課に専任TAC2名を配置しました。担い手農家約130軒を巡回し、ご意見ご要望を伺いながら、各々のニーズの実現をめざし、またJAの業務改善につなげてまいります。

6次産業化応援

IBCテレビ「じゃじゃじゃTV」の新コーナー、いわて6次産業化を応援する「純情1×2×3！」でJAおおふなとの組合員「ひころいちファーム」代表の村上一憲さんが企画した「米粉シリアル」がじゃじゃじゃTVオリジナル商品として開発されることになりました。菊池幸見・風見好栄の両アナウンサーやJAおおふなとが生産・加工・販売までお手伝いします。

地域ブランドの育成

陸前高田市の夢をのせたブランド米「たかたのゆめ」の品質向上や販売拡大に向け陸前高田市と連携を強化し、地域ブランドの育成に取り組んでおります。今年度は、46の生産農家、作付面積56㌶で、240tを収穫する予定です。

組織力向上支援事業の展開

法人化メリットを発揮するための「組織力」向上を図るため、㈱JAおおふなとアグリサービスにおいて、「組織力向上プログラム」の研修を実践中です。「菌床しいたけ」と「ミニトマト」の2チームに分け、①チームミーティング②朝礼・夕礼③メンバーコーチングの研修メニューで作業の進行管理や効率向上に加え、メンバーの意欲や能力を引き出し、組織力向上に取り組んでおります。

おにぎりアートのたかたのゆめちゃん

以上、JAおおふなとの担い手支援活動の一部を紹介させて頂きましたが、今後とも、JAいわてグループ農業担い手サポートセンターの取り組みが、JAおおふなとの担い手支援を通じて、農家組合員の所得増大・農業生産の拡大につながるようサポートしてまいります。

㈱JAおおふなとアグリサービス「ミニトマト」チームのミーティングの様子

中村明子TAC（右）と千葉宏樹TAC（中央）

笑顔がはじける

純情むすめ活動記

「いわて純情野菜としいたけカレーで夏を元気に！」

JA全農いわてと県、ハウス食品が共同企画した「岩手県産野菜としいたけのカレー」のPRイベントが、7月6日に県庁で行われました。

私はイベントの中で、県知事へカレーの配膳をしました。県知事との対面、そして2017いわて純情むすめとしての初仕事はとても緊張しました。スタッフの方と打ち合わせをした後、試食会が始まり、県知事も美味しそうに食べていらっしゃいました。

2017いわて純情むすめ
木村　愛

無事に試食会が終わり、私も試食をさせていただきました。いわて純情野菜としいたけで作られたカレーは、見た目も味も良く、さらには食欲が落ちてしまう夏でも、半日分の野菜を摂取できるレシピで作られていました。主役のしいたけは肉厚で、カレーの風味に良く合っていました。私自身、しいたけの産地である山田町の出身なので、小さい頃からしいたけはよく食べていました。カレーに入れるという発想はありませんでしたが、今回このような新しい発見に出会うことが出来ました。なかでも、プチトマトが入っていることに驚き、感動しました。程よく煮込まれたトマトの食感と、丁度良い酸味がカレーにものすごく合っていて、ぜひ自分でも作ってみたいと思いました。また、今回提供されたお米は「金色の風」というお米で、色ツヤがとても綺麗で、食感や味もカレーとの相性が抜群でした。「金色の風」は今年の秋から本格的に発売されます。去年デビューした「銀河のしずく」と併せて、金銀のお米を県内外に向けてPRしていきたいと思います。

オールいわての農畜産物で作られたカレーは見た目も味も、レベルが高く驚きました。農家の皆さんが愛情を注いで大切に育ててこられた賜物だからだと思います。このイベントに参加し、いわての農畜産物の美味しさや感動を1人でも多くの方に伝えていきたいと強く感じました。これから一年間、2017いわて純情むすめとして、生産者と消費者の皆さんを繋ぐお手伝いができるよう努めていきたいと思います。

管理部
総合企画課
佐藤（さとう） 菜摘（なつみ）さん

JA全農いわての純情人（じゅんじょうびと）

趣味・特技

読書、ドライブ、TV鑑賞、早起き

現在の担当業務

イベントの取材、記事作成

これからどんな職員になってみたいか

行動力のある職員になりたいです。“実践あるのみ”をモットーに、様々なことに積極的に取り組んでいきたいと思います。

その他アピールしたいこと

わからないことが多くあり、毎日勉強の日々です。たくさんのことを吸収し、いち早く岩手の農業に貢献できる人物になれるよう、頑張ってまいります。よろしくお願いします。

牛乳で健康な体づくりを

6月24日（土）・25日（日）、7月1日（土）・2日（日）

いわての牛乳カップ

ＪＡ全農いわてが協賛する「第39回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会岩手県予選―いわての牛乳杯―」が開催されました。運動に励む子どもたちに、健康な体を作ってもらえるよう、出場選手たちにいわての牛乳配布を行いました。

７月２日の決勝戦に勝ち進んだのは、「仙北ゼブラ野球スポーツ少年団（盛岡市）」と「米崎リトルスポーツ少年団（陸前高田市）」です。激闘の末、７対５で優勝を勝ち取ったのは、「仙北ゼブラ野球スポーツ少年団」。優勝チーム主将の田村拓暉選手は、最優秀選手にも選ばれました。田村選手は、ＪＡ全農いわて畜産酪農部の後藤部長から、チームを代表して、優勝トロフィーを受け取りました。

「仙北ゼブラ野球スポーツ少年団」を代表してJA全農いわて畜産酪農部の後藤部長から優勝トロフィーを受け取った主将の田村拓暉くん（左）、準優勝チーム「米崎リトルスポーツ少年団」主将の大和田駿汰くん（右）

県産牛乳の消費拡大へ

7月13日（木）

「いわての牛乳月間キャンペーン2017」抽選会

ＪＡ全農いわては、県産牛乳の消費拡大を目的とした「いわての牛乳月間キャンペーン2017」の抽選会を開催しました。本キャンペーンは、「牛乳月間」である6月中に、牛乳に関するクイズに答えていただき、正解者の中から抽選で賞品をプレゼントするイベントです。今年の応募は、昨年度より263通多い7,830通。さらなる応募増を目指して、「牛乳月間」の周知を図り、県産牛乳の消費拡大を狙います。

当選者には、ダイソンの掃除機や炊飯ジャーなどの豪華賞品が配送されます。たくさんのご応募、ありがとうございました。

当選者を抽選した本会畜産酪農部の後藤部長（左）、千田次長（右）

ＪＡおおふなとブランド確立に向けて

7月18日（火）

ＪＡおおふなと夏秋野菜出発式

ＪＡおおふなとは7月18日（火）、陸前高田市総合営農指導センターで、「平成29年度ＪＡおおふなと出発式」を開催しました。行政機関や運送会社など計39名が参加。これから本格出荷時期を迎えるＪＡおおふなとのブランド確立へ決意を新たにしました。来賓を代表し、ＪＡ全農いわて園芸部及川毅部長は、「消費地から多くの注文が来ており、ＪＡおおふなと管区の野菜は高い評価を得ています。それに対し、生産者の皆様には、野菜の安定供給と出荷量の拡大をお願いするとともに、おいしく新鮮な野菜を届けることができるよう、一丸となって取り組みましょう」と生産拡大の期待を寄せました。

また、生産者を代表して、ＪＡおおふなときゅうり生産部会の松田秀樹部会長は、「安全で安心な、生産者の心がこもった野菜を消費地へお届けします。販売目標を達成できるよう、取り組みます」と決意を述べました。

最後に、輸送の安全や消費地でのＪＡおおふなとブランドの確立を祈念し、テープカットや万歳三唱を行い、野菜を積んだトラックを見送りました。

消費地でのファン獲得を祈念したテープカット

今月1日（火）～4日（金）は、「さんさ踊り」ですね。本会の出番は3日（木）18：40から。2017いわて純情むすめの5人も参加するため、一生懸命練習に励んでいます。私はＪＡ岩手県五連のカメラマンとして参加します。踊っている皆さんに負けないくらいパレードを駆け回ります！

また、11日（金・祝）は、盛岡駅「滝の広場」で、「いわて牛無料試食会」を開催します。毎年多くの皆さんにご来場いただいている人気イベントとなっておりますので、美味しいお肉を食べたい方はぜひ、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

（小野）

食の重要さを子供たちに

6月1日（木）～30日（金）

平成29年度　食育普及啓発キャラバン

6月は「食育月間」でした。ＪＡ全農いわては、岩手県や歯科衛生士や栄養管理士と共同で、県内の保育所を訪問し、子どもたちに食についての大切さを伝えました。

6月１日は、県庁前広場で食育普及啓発キャラバン隊出発式があり、盛岡幼稚園園児による標語の読み上げや踊りが披露されました。岩手県環境生活部の津軽石昭彦部長は、「子どもたちの食育は、子どもたちの心身の成長に大きな影響を与え、豊かな人間性の基礎になります」と食の重要性について挨拶しました。

また、出発式終了後は、キャラバンの取り組みとして、滝沢市のりんごの森保育園に赴き、絵本の読み聞かせや歯磨き指導が行われました。ＪＡ全農いわてとしては、2016いわて純情むすめとじゅんきくんが参加し、絵本の読み聞かせやクイズをしました。その後、キャラバン隊からのプレゼント贈呈があり、園児はご飯をしっかり食べること、歯磨きをすることを約束しました。その他4か所の保育所を回り、食の大切さを伝えました。

子どもたちへ紙芝居の読み聞かせ

みられる施設から見せる施設へ

6月30日（金）

カントリーエレベーター運営管理・環境整備コンクール表彰式

岩手県ＪＡ農業倉庫・カントリーエレベーター（以下ＣＥとする）保管管理協議会は、6月30日にＪＡ全農いわて営農支援センターにおいて、28年度ＣＥにおける品質事故防止と、作業者の安全性に配慮した適正な運営管理を行い、最も積極的な取り組みがみられ、より高度な技術向上が図られたＣＥに対し表彰を行いました。

今回のコンクールで最優秀賞に輝いたのは、ＪＡいわて平泉の一関ＣＥ。一関営農経済センターの鈴木秀夫センター長代理は「施設は設立して24年目。施設の錆びなどＣＥの管理は大変なことですが、日々担当者の取り組みと努力で今回の賞をいただくことができました」と、担当者の労をねぎらいました。また、審査員を務めた、ＪＡ全農いわて米穀販売課の伊藤専一アドバイザーは「すべてにおいて工夫した管理を行っており、今回のテーマ『見せる施設』にふさわしい環境整備を行っていました。今後も現状に満足せず、継続してほしいです」と総評しました。

コンクールの採点は事故防止をメインとし総点数300点からの減点方式。ＪＡいわて平泉の一関ＣＥは300点満点での、最優秀賞受賞となりました。

最優秀賞は一関カントリーエレベーターが受賞

原木しいたけ生産者を応援

7月7日（金）～21日（金）

いわての乾しいたけフェア

7月7日（金）、東日本旅客鉄道株式会社盛岡支店やＪＡ全農いわてなど計5組織は、盛岡駅で県産原木乾しいたけやしいたけ関連商品の即売会を開催しました。春期に採れる春子が出荷される6・7月が「旬」であることや、七夕の「☆（星）」と乾しいたけの「乾し」にかけて7月7日を「乾しいたけの日」と業界団体が定めています。

このフェアは、原発事故により大きな影響を受けた本県の原木しいたけ生産者を応援するため、平成27年から継続して行われており、今年で3回目の開催。当日は、林業応援キャラクター「カンバツ君」と緑の募金キャラクター「どんぐり君」も駆けつけ、会場を盛り上げました。

また、7月21日（金）まで、盛岡駅構内や駅ビルフェザンの飲食店、ホテルメトロポリタン盛岡本館およびNEWWINGのレストランなど計23店舗において、県産乾しいたけを使用したオリジナルメニューを提供し、消費者へPRしました。

しいたけ即売会の様子

純情産地発
KLARA
JA全農いわて通信　クラーラ　平成29年8月1日発行　No.817
【編集・発行】JA全農いわて　総合企画課　【印刷】株式会社　杜陵印刷

第11回 全国和牛能力共進会 in みやぎ

開催テーマ

高めよう生産力
伝えよう和牛力
明日へつなぐ和牛生産

全国39道府県の代表牛が宮城県に大集合!!

種牛の部
夢メッセみやぎ
宮城県仙台市宮城野区港3丁目1−7
●雄牛・雌牛の体型の良さなどを出品区別に審査します。
出品頭数 330 頭

肉牛の部
仙台市中央卸売市場食肉市場
宮城県仙台市宮城野区扇町6丁目3−6　※一般の方は入場できません
●枝肉の状態で肉質などを審査します。
（※枝肉セリは夢メッセみやぎで行います）
出品頭数 183 頭

メイン会場：夢メッセみやぎイメージパース

平成29年9月7日(木)▶11日(月)

●主催　公益社団法人全国和牛登録協会　●運営団体　第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会

みんなのよい食プロジェクト
食は日本の未来
JA JAグループ

私たち全農グループは、
生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
■営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
■安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
■地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ
〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号　TEL019-626-8615　FAX019-653-6145
http://www.junjo.jp

PRINTED WITH SOY INK ™